

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4570200784
法人名	社会福祉法人 常緑会
事業所名	グループホーム ふるさと
所在地	宮崎県都城市豊満町2642番地1 (電話) 0986-45-7010
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21年 7月 31日

【情報提供票より】(21年7月21日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6人, 非常勤 2人, 常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~38,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(7月21日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	2 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	86 歳	最低 76 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤本病院 大悟病院 藤本早鈴病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、都城の中心部より車で約10分程の郊外にあり民家が点在する広大な田園風景の中に位地している。母体が医療施設で、定期的な往診体制や健康問題が生じた場合など、速やかに医療連携を図り健康管理を行っている。職員に対しても、法人内外の研修に参加を促し、ケアの質の向上に努める働きかけをしている。また、地域や行政と連携を図り運営推進会議を積極的に活用して、終末期に対し前向きに検討されている。職員から、「利用者に対し寂しい思いをさせないよう、寄り添うケアをしている」との声が聴かれ、理念を日々の実践に活かした取り組みがなされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価の改善課題である外部研修報告については、週1回の職員勉強会や月1回の研修報告会で詳しく報告し全員で共有する等改善している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全員で検討し、職員は外部評価の意義も理解している。毎年、自己評価を行うことでケアの見直しとなり、さらなる質の改善に向けた取り組みがなされている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2か月に1回開催される運営推進会議は、幅広い立場の人が参加して行われる。討議内容としては、自己評価の取り組みについての報告や、ターミナルケアについての検討、ホームの活動報告、運営や問題点についてなど協議されている。また、行政や地域住民との連携の場として活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や、夏祭り開催時できるだけ多くの参加を呼びかけコミュニケーションを深める中から、家族の意見や不満を引き出せるよう働きかけているが、率直な意見や苦情を引き出すに至っていない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの夏祭りでは多くの地域住民が参加し交流をはかっている。また、ボランティアの受け入れや、地区の文化祭へ作品の出展など地域との交流が積極的に行われている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念を基本に、介護の理念があり、更にグループホーム独自の理念を職員全員で話し合い作成している。また、理念は、地域性を盛り込んだ利用者本意の理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホームの見やすい所に掲示され、毎朝ミーティングで唱和して業務に入るようにしている。管理者や、職員の言葉として、「さみしい思いをさせないように」日々の取り組みがなされている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの夏祭りでは多くの地域住民の参加がある。また、地域ボランティアの受け入れや、地区の文化祭出展など地域との交流が積極的に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全員で検討し、外部評価の意義についても理解できている。前回の課題についても、ケアの質の向上を目指し改善に向けての具体的な取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催され、メンバーとして利用者や家族、公民館長、行政職員など幅広い参加がある。外部評価の報告や、ホームの問題など会議を活用された記録があり、内容が自由に閲覧できるようになっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に2回、介護相談員の訪問があり対応してもらっている。他、不明な点についてもその都度ホーム長が行政と連絡を取合い連携が図られている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年に3回ホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりを報告している。金銭管理については、家族の面会時に報告し確認のサインをもらっている。また、健康状態を電話で知らせたり、インターネットのメールで写真を送るなどの取り組みもなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事時、家族からの意見を引き出す努力がなされているが、率直な意見や苦情を引き出すに至っていない。	○	家族会を設けたり、また、重要説明書に苦情担当者や行政担当者の連絡先を記載するなど、家族からの意見や苦情等、引き出す取り組みを期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は極力しないよう配慮され、異動が生じた場合においても、利用者が混乱しないよう時間をかけて細かな引継がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が内外部の研修に参加できるよう、年間計画を立てて取り組んでいる。また、月1回の研修報告や週1回の職員勉強会が企画されるなど、積極的な取り組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内と県南ブロックで、月1回のグループホーム連絡協議会を開催し情報を共有し、同業者との交流が図られケアの質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者の入居による不安を解消するため入居の際は、自宅や病院に向いて馴染みの関係に配慮した入居となっている。また、施設見学にも対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に洗濯物を干したり、料理の盛りつけと一緒にする。また、漬け物の漬け方を習うなど、共に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を把握し日常の支援に努めている。意思表示が困難な場合は、表情や態度で意思をくみ取る対応がなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、担当者だけでなくスタッフ全員で話し合い作成している。また、利用者や家族の希望を反映した、利用者本位の介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しやモニタリングは3か月に1回実施されている。また、変化が生じた場合は現状に即した計画の見直しがなされている。	○	安定しているような利用者の場合においても、月に1回程度は新鮮な目で本人や家族の意向を確認するとともに、現状に即した計画の見直しを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じて、通院支援や外出、外泊時自宅への送迎など柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人母体の医療機関から定期的な往診を行い健康管理している。また、希望があればかかりつけ医を優先にする取り組みがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の終末ケアについて、家族アンケートを取り前向きに対応している。運営推進会議の議案としても取り上げ看取りについて家族と協議している。看取りの経験もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する声かけは、方言や標準語を使い分けさりげなく寄り添う対応がなされている。また、利用者の台帳や書類などの管理もきちんと保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調や希望に合わせて、部屋やホールで過ごし、無理のないように自由に過ごせるよう柔軟な対応をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が作成し、重度化に合わせて食事形態を変更している。能力に応じて利用者に食事の準備を手伝ってもらったり、職員は同じ食事を一緒に食べながら、さりげない支援がなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、2日に1回行われ、希望時はその都度対応している。入浴拒否時は部分浴で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の趣味や能力を活かし、役割や楽しみごとの支援が行われている。また、利用者と職員が共同で作成した作品を文化祭へ出品し楽しんでいる。季節ごとにミニドライブや外出に出かけたり気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在増築工事の為、安全性を考慮し日常的な外出支援は控えている。	○	隣で工事しているという環境ではあるが、安全性を考慮した上で、利用者の気分転換やストレス発散、五感刺激の為に短時間でも戸外に出る機会を作してほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、鍵をかけることの弊害を充分理解しているが、現在隣接地に建物を建築中であり、事故防止の立場から常時施錠をしている。施錠について家族の了解を得ている。	○	鍵をかけることが利用者にもたらす心理的影響を考慮し、日中鍵をかけないですむ取り組みを期待したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、併設する特養と一緒に年2回開催されている。訓練には地域住民や消防団員の参加協力もあり、出火場所を特定して行うなど、具体的なものとなっており確実な避難誘導ができるよう地域の協力体制が整っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成し、毎日の食事量や水分チェック、排泄記録がある。定期的に体重測定を行い、健康管理がなされている。「ほとんど食べ残しが無く、利用者の方がみんな健康です」と職員が自信を持って対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間であるホールは広々としており、利用者や家族と一緒に過ごせるよう、ソファや畳の空間を設けるなど、ゆっくりくつろげるよう配慮されている。また、仏壇やテレビ、本等が置かれ家庭的な雰囲気の中で過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその人らしい個性ある空間となっており、仏壇や馴染みの家具などの持ち込みがある。また、部屋には家族の写真を飾るなど居心地良い居室となっている。		